

Ⅲ. 大課題 1 基質入り網袋、カゴを用いた稚貝育成技術の開発

目 次

Ⅲ. 概要	18
1. 本課題の目的と構成	18
2. 本課題の目標	19
Ⅲ-1. 中課題 1－1 パーム等を用いた湾奥域での稚貝育成技術の開発	20
Ⅲ-2. 中課題 1－2 基質入り袋網を用いた稚貝育成技術の開発	68

Ⅲ. 大課題2 基質入り網袋、カゴを用いた稚貝育成技術の開発

Ⅲ-1. 概要

1. 本課題の目的と構成

近有明海全体のアサリ生息量を増やし生産性向上に資するための一方策は、浮遊幼生期に有明海の外への流失や、着底しても流失や食害によって消失してしまう等によって未利用となっているアサリ稚貝を効率的に採取し、適した方法で保護・育成することである。また、「有明海・八代海等総合調査評価委員会」においてもアサリ稚貝保護・育成の必要性が挙げられている。

本技術開発では泥分が多いためにアサリ稚貝の着底が妨げられている海域①（砂泥干潟：福岡）と浮遊幼生の来遊量が多いが成貝まで生残しない海域②（礫干潟：長崎）において、移植用アサリ増産による生産性の向上をめざし、地先ごとの特性に応じた技術の開発を行う。

本技術開発では、浮遊幼生期～稚貝期に流出や食害等により消失してしまうことからアサリ資源として十分に活用されていない海域において、アサリ稚貝の効率的な採取、効果的な保護育成・移植による生産の体系（一連の方法）を構築することを目的に実証事業を実施する。技術開発にあたっては、移植用アサリの採取量を増加させるための適条件の把握、要素技術の改良、また、作業性の改善に伴うコストダウンを検討し、5年目までに漁獲増加量/コストが1.0以上となる一連の方法の構築を目標とする。

本大課題は、移植用アサリの増産に向け、平成30年度より新たに取り組むことにした技術開発である。消失するアサリ資源の有効活用を技術的課題として、アサリの生活史に着目した技術開発要素を中課題ごとに以下のように定めた。

- ・中課題1－1 パーム等を用いた湾奥域での稚貝育成技術の開発（福岡県柳川市3号地先）
 - ①：パームを用いた稚貝採取技術（着底した初期稚貝～稚貝の効率的な確保）
 - ②：基質入り網袋を用いた保護育成技術（採取した稚貝の効率的な保護・育成）
 - ③：①と②を組み合わせた一連の方法

- ・中課題1－2 基質入り袋網を用いた稚貝育成技術の開発（長崎県島原市猛島地先）
 - ①：基質入り網袋を用いた稚貝採取技術（着底した初期稚貝～稚貝の効率的な確保）
 - ②：基質入り網袋、カゴを用いた保護育成技術（採取した稚貝の効率的な保護・育成）
 - ③：県内他地域へのアサリの運搬（移植）方法の開発（採取した移植用アサリの効率的な運搬）
 - ④：①～③を組み合わせた一連の方法

2. 本課題の目標

アサリ稚貝の保護・育成技術の開発の開発を目標とする。

有明海全体のアサリ生息量を増やし生産性向上に資するための一方策は、浮遊幼生期に有明海の外への流失や、着底しても流失や食害によって消失してしまう等によって未利用となっているアサリ稚貝を保護・育成することである。また、「有明海・八代海等総合調査評価委員会」においてもアサリ稚貝保護・育成の必要性が挙げられている。そこで、泥分が多いためにアサリ稚貝の着底が妨げられている海域（砂泥干潟：福岡）と、浮遊幼生の来遊量が多いが成貝まで生残しない海域（礫干潟：長崎）において、次の中課題を対象とした技術開発の実証実験を実施する。

・中課題 1－1 パーム等を用いた湾奥域での稚貝育成技術の開発（福岡県）

令和3年度の目標：パームを用いた稚貝の確保や基質入り網袋（軽石（約2mm））による保護・育成が可能となったことから、令和3年度は①実用規模を目指した稚貝採取規模の拡大、②地撒き用サイズまでの保護・育成技術の設置規模の拡大を目標とする。

・中課題 1－2 基質入り袋網を用いた稚貝育成技術の開発（長崎県）

令和3年度の目標：長崎県では、稚貝採取に好適な場を把握し、基質入り網袋による稚貝採取、保護・育成実験を行い、稚貝を採取し移植サイズまで保護・育成する一連の方法についての見通しを得たことから、①生産性向上のための採苗器の設置場所と好適な面積の把握、②効率的な保護育成手法の把握、③稚貝採取から運搬までの一連の方法を試験運用することによるコスト算定と手引き素案の作成を目標とする。